

学校法人 城西大学

創立50周年記念事業

Josai University Educational Corporation's
50th anniversary festivities

Newsletter

Josai University Educational Corporation
3-26 Kioi-cho, Chiyoda-ku, Tokyo ☎ 03-6238-1300 <http://www.josai.jp/>

学校法人 城西大学

〒 102-0094 東京都千代田区紀尾井町 3-26

☎ 03-6238-1300

<http://www.josai.jp/>

(2015.7.1 発行)



マハティール氏に名誉博士号を授与いたしました



教職員や学生の出迎えを受けて本学に到着したマハティール氏



講演するマハティール氏

2015年5月21日、学校法人城西大学（水田宗子理事長）は創立50周年を記念して元マレーシア首相のマハティール・ビン・モハマド（Mahatir bin Mohamad）氏を招いた講演会「平和への知恵——未来のリーダー・国際市民へのメッセージ」（Enhancing Knowledge for Peace: A message to Future Leaders & Global Citizens）を、東京紀尾井町キャンパスで開催しました。

また、本学はこの日、講演会を記念して

マハティール氏に名誉博士号を授与するとともに、法人本部内に「アセアン研究センター」を設立しました。

本学は50周年記念事業の一環として、内外から世界的に影響力のある方、優れた研究業績を残された方などを招いてグローバル人材育成に資することを目的とする水田三喜男記念「グローバル・レクチャー」シリーズを展開することになり、マハティール氏の講演会がそのスタートになりました。

創立50周年記念 水田三喜男記念

「グローバル・レクチャーシリーズ」

マハティール元マレーシア首相講演会

日時：2015年5月21日（木）10時30分
場所：東京紀尾井町キャンパスホール



講演会に先立ち挨拶する水田理事長



講演会後の記念撮影

マハティール氏はマレーシア第4代首相。開業医から政治家に転じ、1981年から2003年までの22年間、マレーシアでは最長の首相を務めました。アジアを代表する知日のリーダーで、欧米諸国ではなく日本の経済成長を見習おうという「ルックイースト（東方）政策」を唱え、長期に及ぶ強力なリーダーシップにより、マレーシアの国力を飛躍的に増大させました。

今回の講演会は水田理事長を団長とする学
校法人城西大学の一行が今年1月、マレーシ
アを訪問した際にマハティール氏の自宅を表
敬訪問。「グローバル・レクチャー」シリー
ズへの登壇を依頼し、快諾を得たことから実
現しました。



マハティール氏と学生たち

マハティール氏ら一行は5月21日午前、城
西大学や城西国際大学の教職員や学生・留学
生が迎える中、東京紀尾井町キャンパス3
号棟と1号棟を訪れました。1号棟ホールで
行われた講演会で、水田理事長は「アジアの
平和と繁栄、共存をもたらした偉大な指導者
のメッセージを聴くことができるのは大変名
誉なこと」と挨拶。マハティール氏は講演で
「マレーシアは5つの国と国境を接し領土問
題を抱えているが、国際司法裁判所の判断に
従って戦争を起こすことなく解決してきた」と
述べたうえで、「日本は他国との争いに戦
争という手段を使つてはならない。戦争は最
大の犯罪という価値観を世界に広めなければ
ならない」と訴えられました。



会場の様子

50周年を記念したコンサートが開かれまし
た。創立記念日の4月20日、清光ホールで創立

創立50周年記念コンサートを開催

日時.. 2015年4月20日(月) 13時30分
場所.. 城西大学坂戸キャンパス清光会館ホール

ホールはアジア関連団体や政府の関係者、
教職員や学生・留学生らで満席。両大学のサ
テライトでも学生らが、アジアを代表する
リーダーの貴重な話に熱心に聞き入りまし
た。

講演会後はホテルに会場を移して午餐会が

行われました。来賓の前日本経団連会長の米
倉弘昌・住友化学相談役や乾杯の音頭を取っ
ていただいた杉田亮毅・日本経済新聞社元会
長、伊藤芳明・毎日新聞社専務取締役主筆の
方々を交えて歓談の輪が広がりました。



セルダハイ玲子氏と金子三勇士氏の連弾

た。2007年にブダペスト商科大学と学術
交流協定を結んで以来、ハンガリーとは多く



半田氏の歌声も美しく

の学生が行き来して交流を深めています。記念コンサートは、ハンガリーに関係の深い演奏家の方々を招いて開かれました。
コンサートに先立ち、水田宗子理事長は挨拶で「本日は創立50周年の最初の幕開けの行事です」と創立記念日に触れた後、「ハンガリーとの関係は私どもが国際教育を推進するうえで大きな力となっています。また、ハンガリーはリストをはじめ著名な音楽家を輩出。活躍中の演奏家の方々を招いた本日のコンサートをお楽しみください」と述べました。続いて来賓のセルダハイ・イシュトヴァーン駐日ハンガリー大使は「ハンガリーから要人が来る際は必ず城西大学を訪ねて、素晴らしい業績を直接見てもらっています。本日、ハンガリーの音楽を皆さんに聴いていただけることは本当にありがたい」と感謝の



クラリネットを演奏するコハーン氏

言葉を述べられました。
日本人の父とハンガリー人の母を持つ金子三勇士さんのピアノ演奏によるショパン「ポロネーズ第6番変イ長調『英雄』」からコンサートはスタート。ブダペスト生まれのコハーン・イシュトヴァーンさん（クラリネット）、半田美和子さん（ソプラノ）、セルダハイ大使の夫人で友情出演のセルダハイ玲子さん（ピアノ）によって、リストやバルトークの作品をはじめ、中田喜直作曲の日本の歌曲やアンコールの滝廉太郎作曲「花」など14曲が披露されました。日本ハンガリー友好協会の猪谷晶子専務理事や協会の会員の皆さまや地域の方々、教職員や学生・留学生など約500人が、晴れやかで美しい演奏に聴き入りました。



水田美術館を見学

2015年6月13日、学校法人城西大学（水田宗子理事長）は創立50周年を記念して米ハーバード大学名誉教授のエズラ・F・ヴォーゲル（Ezra F. Vogel）氏を招いた講演会「東アジア…これからの50年」(East Asia in the Next Fifty Years)を、埼玉県坂戸市の坂戸キャンパスで開催しました。本学は講演会を記念して、ヴォーゲル氏に名誉博士号を授与しました。



名誉博士号授与

本学は50周年記念事業の一環として、内外から世界的に影響力のある方、優れた研究業績を残された方などを招いてグローバル人材の育成に資することを目的とする水田三喜男記念「グローバル・レクチャー」シリーズを展開しています。ヴォーゲル氏は、5月21日の元マレーシア首相のマハティール・ビン・モハマド（Mahatir bin Mohammad）氏に続いて2人目の登壇となりました。

創立50周年記念 水田三喜男記念

「グローバル・レクチャーシリーズ」

エズラ・F・ヴォーゲル名誉博士記授与式・講演会

日時…2015年6月13日(土) 10時45分

場所…城西大学坂戸キャンパス清光会館ホール



講演の様子

ヴォーゲル氏は、1958年にハーバード大学で博士号(社会学)を取得後、日本語と日本の家族関係の研究のために来日して2年間滞りました。1972年に同大の東アジア研究所長に就任。日本でベストセラーとなった「ジャパン・アズ・ナンバワン」を79年に発表しました。最近10年以上を費やして執筆、2013年に発表した「現代中国の父 鄧小平」も話題となりました。比較文学研究者として滞米生活が長かった水田理事長が、旧知のヴォーゲル氏に依頼して講演会が実現しました。



ヴォーゲル氏はこの日午前、城西大学や城西国際大学の教職員、学生・留学生らの出迎を受けて、坂戸キャンパスに到着。水田美術館で収蔵の浮世絵を鑑賞した後、名誉博士号授与式と講演会に臨みました。



清光ホールで行われた名誉博士号授与式の後、水田理事長は挨拶で「日本研究だけでなく、この地域の平和と繁栄のために欠くことのできない学術、研究上の貢献をされた」とヴォーゲル氏の業績をたたえました。講演会でヴォーゲル氏はベルリンの壁崩壊や天安門事件のあった1989年の前後25年に分けて、日本と中国、アメリカの政治、経済、社会の変化をたどりました。そして今後の東アジアを展望するポイントとして「経済成長の継続」「環境問題の悪化」「国際交流の拡大」を挙げました。そのうえで、アメリカは「中国と環境問題で協力しなければならぬ」と指摘。経済成長を遂げ近隣諸国と摩擦を起こしている中国に対しては「低姿勢の外交政策を取るべきだ」と提言しました。また、日本については「もっと自然な英語を学ぶ必要がある」と述べ、会場を笑いを誘った後、韓国を念頭に「隣の国と仲良くするためにもう少し我慢する必要がある。国の代表は思いやりと責任感」と結びました。ヴォーゲル氏は、「少子高齢化時代に若い世代は何をすべきか」などこの学生の質問にも丁寧にお答えになりました。



ヴォーゲル氏と学生たち

ウプサラ大学との合同シンポジウム

日時…2015年3月30日(月)13時
場所…東京紀尾井町キャンパスホール

2015年3月30日、学校法人城西大学は創立50周年を記念して東京紀尾井町キャン

パス1号棟ホールで、スウェーデン・ウプサラ大学(Uppsala University)と合同シ

など来賓の方々をはじめ、城西大学と城西国際大学の教職員や学生、研究者や近隣の方々などホールを埋めた約500人は、長い学究生活に裏打ちされたヴォーゲル氏の話に熱心に聞き入っていました。

講演会後はレセプションも行われ、ヴォーゲル氏を囲んで歓談の輪が広がりました。



パネルディスカッションの様子

ンボジウム「スウェーデンと日本における女性学および文学」(Women's Studies and Literatures in Sweden and Japan)を開催しました。シンポジウムには、パネリストとして本学から比較文学者で詩人である水田宗子理事長はじめ4人、ウプサラ大学からアン・オールベルク (Ann Öhberg) 文学部長はじめ4人が参加しました。また、ジェンダー関係のシンポジウムということもあり、ヘレナ・ドルノウシエク・ゾルコ (Helena Drnovsek Zorko) 駐日スロベニア共和国大使も参加、城西大学と女性学の講座を持つ城

西国際大の教職員や学生・留学生のほか、多くの研究者の皆さんや日本スウェーデン協会(会長・水田理事長)の皆さんら約160人が熱心に聞き入りました。

ウプサラ大学は1477年に創設された北欧最古の大学です。ヨーロッパの最も権威のある高等教育・研究機関の一つであり、15人の大学関係者(卒業生、教員など)がノーベル賞を受賞しています。また、植物学の父とされるカール・フォン・リンネ(Carl von Linné)が学んだ大学としても知られています。昨年10月、ウプサラ大学の卒業生で前駐日スウェーデン大使のラーシュ・ヴァリエ(Lars Varjo)氏が(退官後に城西国際大学の特任教授)の紹介で、本学の一行がウプサラ大学を訪問したことが縁で、この日の合同シンポジウムが実現しました。

水田理事長はシンポジウムの冒頭、「光栄でうれしく思うのは、このように早く皆さんをお迎えできたことです。スウェーデンと日本の将来のコミュニケーションの出発点になることを願っています」と歓迎の挨拶をしました。その後、ヴァリエ氏も参加して二つのセッションで、両国の女性文学や女性表現、スウェーデンが先進国のジェンダー研究などを巡ってそれぞれ発言や討論があり、最後は参加者全員によるパネルディスカッションが行われました。討論の締めくくりでオールベルク文学部長は「スウェーデンはジェンダー研究の先進国と言われるが、自己満足してはいけない。常に前に進まなければならない」と語り、「本日のシンポジウムで日本文学と日本文化、そして城西大学について多くのことを学びました」と感謝の言葉を述べました。

学校法人城西大学創立50周年記念

ラーシュ・ヴァリエ前駐日スウェーデン大使特別講演会

日時：2015年3月27日(金) 11時10分
場所：東京紀尾井町キャンパス3号棟国際会議場

2015年3月27日、学校法人城西大学(水田宗子理事長)は創立50周年を記念して前駐日スウェーデン大使、ラーシュ・ヴァリエ(Lars Varjo)氏の特別講演会「世界中の俳句」を東京紀尾井町キャンパス3号棟で開催しました。

ヴァリエ氏は、スウェーデンのウプサラ大学(Uppsala University) 東洋学科を卒業。駐日スウェーデン大使館勤務時に京都大学文学部国史学科で学びました。ストックホルム大学から日本古代史の研究により博士号を取得。その後、駐韓スウェーデン大使を経て2011年から2014年まで駐日スウェーデン大使を務め、14年に日本国の旭日大綬章を受章されました。日本文学の翻訳のほか、句集など多数を出版され、退官後は城西国際大の特任教授に就任いただきました。

講演に先立ち、日本スウェーデン協会の会長を昨年務める水田理事長は挨拶で「日本と東アジアの文化を世界に広めていただきたい」とヴァリエ氏を称えました。ヴァリエ氏は日本語で行われたこの日の講演で、イギリスの文学者で日本文化研究者のレジナルド・ホーラス・ブライス(Reginald Horace Blyth, 1898-1964年)に代表される、日本の俳句や川柳を西洋に紹介した多くの文学者を紹介したうえで、「西洋の詩の中にも俳句の雰囲気を見つけることができる」と例を挙げて説明されました。また、さまざまな西洋の文学者や子どもたちの句を紹介

した。

介し、「西洋の学校でも俳句を教えているが、子どもたちの句の中に俳諧のスピリッツやユーモアを感じることができる」と結ばれました。

講演会には両大学の教職員や国際俳句交流協会の会員の皆さん、エクステンション受講者の皆さんら約100人が参加。興味あふれるヴァリエ氏のお話に耳を傾けました。

なお、詩人でもある水田理事長は2013年12月、スウェーデン政府より生命の尊厳を表現する東アジアの詩人に贈られるチカダ賞



を受賞しました。受賞を記念して2014年6月、ヴァリエ氏や国際俳句交流協会の有馬朗人会長も参加した国際シンポジウム「生命の尊厳を表現すること」を開催しました。そ

の模様は「チカダ賞受賞記念国際シンポジウム・生命の尊厳を表現すること」(学校法人城西国際出版会、2015年1月刊行)に収録されています。

学校法人城西大学創立50周年記念

修剛天津外国語大学学長特別講演会

日時..2015年5月8日(金)11時10分
場所..東京紀尾井町キャンパス3号棟国際会議場

2015年5月8日、学校法人城西大学(水田宗子理事長)は創立50周年を記念して天津外国語大学の修剛学長による特別講演会「大学のグローバル人材・高度職業人教育に関する取り組み」を東京紀尾井町キャンパス3号棟で開催しました。



講演する修学長

修学長は日本語教育が専門で、現在の中国の大学学長の中で唯一日本を専門とする学者です。中国の日本語教育の学会である中国日本語教育研究会の会長を務め、現在は中国教育部の外国語教育指導委員会・日本語委員会の主任、中国翻訳協会副会長の要職にあります。

本学と天津外国語大学は、2007年10月に学術交流協定を締結しました。大学院、学部にてこれまで300人を超える学生が学びにきており、また教員の交流も行われていきます。こうしたことから2011年9月には、修学長に城西国際大学の名誉博士号を授与いたしました。現在、天津外国語大学大学院の14人の学生が、半年間の短期留学で城西国際大学メディア学部ビジネスデザイン研究科に学んでいます。

講演に先立ち、水田理事長は「世界的に著名な修先生のお話は、私どもに大きな示唆を与えてくれるものになります」と挨拶しました。修学長は、副題「中国の大学教育改革の方向性と日中大学間の協働の可能性」が付いたこの日の特別講演で「グローバル人材の育成はこれからの大学の大きな方向性の一つ。また、中国では専門性を持った高度職業人の育成にも力を入れている。グローバル人

材と高度職業人の育成は、中国と日本の大学の共通認識で目標でもある。交流の歴史と実績、文化的・距離的に近いことなどから、中日大学間の協働には大きな可能性がある」と指摘したうえで、「天津外国語大学と城西大学、城西国際大学の行動がモデルの一つになればいい」と結ばれました。また、昨今の日中関係にも触れ、「隣人との付き合いを大事

にしなければならない。国民同士の交流を通じて、中日関係を良くしないといけない」と述べられました。講演会には城西国際大学と城西大学の教職員や天津外国語大学はじめ中国からの留学生ら約100人が参加し、長い経験に裏打ちされた修学長のお話に熱心に聞き入りました。

学校法人城西大学創立50周年記念

清水義明米プリンス頓大名誉教授特別講演会

日時..2015年2月24日(火)11時
場所..東京紀尾井町キャンパス3号棟国際会議場

創立50周年を記念した特別公開講座「伊藤若冲の諸作品と仏教の『本覚思想』の主張」が2月24日、東京紀尾井町キャンパス3号棟で開かれました。日本美術史の第一人者である米プリンス頓大名誉教授(美術・考古学)の清水義明氏が、江戸時代中期に活躍した絵師・伊藤若冲の諸作品の宗教的側面についてお話いただきました。

伊藤若冲(1716~1800年)は、光琳の装飾画風を取り入れるなどして独特の造形感覚による個性的な画風を生みだしました。写実的な動植物の絵も多く「奇想の画家」として知られます。また「本覚(ほんがく)思想」とは、悟りはおもと一切の衆生に本来的に具有されているとの考えで、主に天台宗を中心として仏教界全体に広まったとされます。

清水名誉教授はスライドで若冲の諸作品やさまざまな涅槃図を紹介しながら「芸術的な若冲の諸作品に宗教的な意味合いが交差する。それが若冲作品の価値で、本覚思想につながっていく」などとお話しになりました。



若冲の作品を説明する清水教授

JUカフェ2015 オープニングセレモニー

日時：2015年4月4日(土) 10時～
場所：城西大学坂戸キャンパス第1食堂棟

第1食堂棟の1階の食堂が4月から、お酒落な「JUカフェ」として生まれ変わりました。JUカフェ(630席)は、水田美術館を設計した米エール大建築科のスニール・ポールド教授と大林組の設計部による設計で、企業や学校での健康サポートや施設等でのレストラン経営などを幅広く手がける「AIMサービス」(東京都港区)が運営しています。



テープカット

4月4日の入学式当日にオープニングテープカットが行われ、中央委員会などの学生団体のメンバーをはじめ、サッカー部や硬式野球部、女子ソフトボール部などの部員、教職員など約400人が見守りました。水田宗子理事長は挨拶で「50周年記念事業の一つである食堂の改装がなり、大変うれしく思います。この食堂が長く私たちの大学の学生たちの健康と勉強生活を支える場であるよう、食



試食会

堂を世話し大切に育ててほしい」と呼びかけました。水田理事長や森本雅憲学長、岩浅壮太郎・中央委員会委員長らがテープカット

した後、学生たちは真新しいカフェに入り、「きれい」「すごい」などと声を上げ、焼き立てのパンやクッキーを試食していました。

キャンパス5号棟がオープンしました

日時：2015年2月12日(木) 13時30分
場所：東京紀尾井町キャンパス5号棟オープン

学校法人城西大学は、創立50周年の記念事業として東京・紀尾井町キャンパスに新校舎の5号棟をオープンさせました。

2015年2月12日には、教職員、理事ら大学関係者や同窓生らが集まり、オープニングのテープカット式が行われました。

水田宗子理事長が「おかげさまでたくさんのお客様・院生が紀尾井町キャンパスに集まり、学ぶようになりました。50周年の記念事業としてシンポジウムなども予定されています。入試・就職関連の活動も盛んに行われています。5号棟は、そうした受け皿になるとともに同窓会活動の拠点にもなるでしょう」とあいさつされました。

続いて鈴木文雄・城西大学同窓会長が「日本の心臓部ともいえるこの地で、同窓生に対する情報の受信・発信していきたい。同窓会室をその基地にし活用し、大学の発展のために応援していきたいと思えます」と述べました。

5号棟は、地下1階、地上5階建てで延べ面積は約1,400㎡。1階には、入試・広報センター、維持協力会・父母後援会、同窓会室があり



ます。2～4階には、ミニ・シアター、セミナー室、学習室などが設けられました。5階は、海外姉妹校からの中・長期滞在者用のゲストルームを設けてあります。

紀尾井町キャンパスは、2005年に開設されました。城西大学、城西短期大学の坂戸キャンパス、城西国際大学の東金・安房キャンパスを結んでいます。講義室や就職活動の支援など学生への幅広い支援のための施設を備えているほか教室国際学術文化交流センター、国際会議室などを設置、研究、国際交流の場となっています。現在、学生、院生ら約2,000人が学んでいます。

